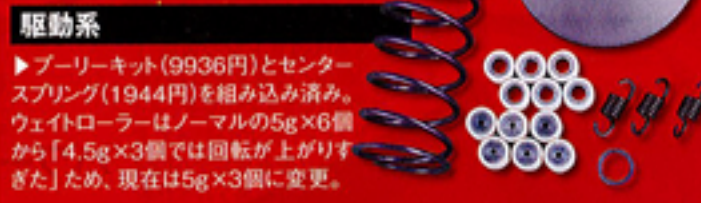


PHOTO: 石村英治 (フォトスペースRS)
取材協力: NRマジック ☎0745-62-1680
スポーツランド生駒 ☎0743-73-2484

NR MAGIC 4 STROKE JOG RACING MACHINE



マフラー
▲アップタイプのステンレス製レース用マフラーは、今回新開発したものだ。「Vレーシング50」として、3万2400円で販売中だ。



駆動系
▶ブリーキット(9936円)とセンタースプリング(1944円)を組み込み済み。ウェイトローラーはノーマルの5g×6個から「4.5g×3個では回転が上がりすぎた」ため、現在は5g×3個に変更。

こちらが、NRマジックのレースマシン。まだ製作途中のため、実際のレースまでにはレーシングマスクなども装着される予定。ベースは4ストのJOGデラックス。JOGをチョイスしたのは、リミッターカット可能なECU(サブコン)が発売されていて、バンク角が確保できそう、という理由から。



フロントサスペンション
▲リミッターをカットするため、サブコンの装着は必須。このマシンはキタコのi-MAPをチョイスし、1万2000rpmまで回るようにセッティングしている。



リヤショック
▲バンク角を向上させるため、40mmロングのリヤショックアダプターを装着。ショック自体は昔にエジソン中里がレースで使用していたビチューボだが、これで充分だとか。こんな風に、パーツにお金がかからないのも魅力だ。

モトチャンプ杯ミニバイクレース
4スト50ccクラス レギュレーション
[スクータークラス]
エンジンはノーマル。マフラー、リヤサス、駆動系、ECUは改造、変更可。フロントサスはオイル調整のみ。タイヤは変更可。
[ミッションクラス]
排気量がノーマルならば、エンジンの改造可。マフラー、ECU、リヤサス、タイヤ、ギヤ比の変更可。
▲エキジビションということで、今回は最低限のレギュレーションを制定。このあたりも参加者の声や実際のレースの様相を考慮しながら、検討を重ねていくことになる。



ベースマシンはこちら
現在発売中のヤマハJOGは16万9200円(フロントディスクブレーキのデラックスは17万3880円)。中古ならば5万円程度の車体も散見され、シグナスX(1型)の半額程度の相場、といった印象だ。

コンピューター
▲バンク角を向上させるため、40mmロングのリヤショックアダプターを装着。ショック自体は昔にエジソン中里がレースで使用していたビチューボだが、これで充分だとか。こんな風に、パーツにお金がかからないのも魅力だ。



キッシー岸田が斬る!

初心者もベテランもそれぞれの楽しみ方がある
「実は、乗る前はもっと遅いかも……と思っていたんだけど、レースの入門カテゴリーとしてはちょうどいいんじゃないかな。間違った乗り方をするとすぐに車速が落ちてしまうので、タイムの出し方の基礎を学ぶにはすごく適していると思う。走りながらサーキットを攻略することを考える時間があって、自分自身、改めて初心に戻った感じがした。意外に車体もしっかりしていて、70kgの自分が乗ってめちゃくちゃ走れるの面白いね」



▲2014年の鈴鹿Mini-Moto4耐ではグロムで3位表彰台に上がるなど、ミッション車はお手の物のエジソン中里。しかし、スクーターのレーサーに乗るのは久しぶりで「まだまだハビリ中」と言いながら、本番のレースに向けてセッティングをしっかりと煮詰めるのであった。



「けっこうおもしろいですね! キッシー岸田」
「そやろ〜 エジソン中里」



0.1秒でも速く、誰よりも前へ。とことんスピードを突き詰めて行くレースの世界は、とかく敷居が高くなりがちだ。しかし、レース人口が減少傾向にある昨今、底辺層を拡大するために、もっと初心者に向けたカテゴリーがあってもいいのではないか。そんな考えのもとに目を付けたのが、中古で低価格&タマ数豊富な4スト50ccスクーターなのだ。

レース初心者におすすめ!

“4スト50ccクラス”がこれから来る!?
気軽にレースを楽しみたい人にピッタリの新カテゴリーを提案

- 4スト50ccのいいところ!
- ①車体が安く手に入る
- ②パーツ供給の心配がない
- ③初心者も安心のスピード

「ミニバイクの混走もあり」
しかし、4スト50ccスクーターで気になるのは絶対的パワーの小ささ。レースをするにあたって、そこは問題にならないのだろうか? 「確かに、ノーマル同士を比べたら2ストの方が速いですよ。でも、自分は4ストジョグの街乗り用マフラーも作っていた経験から「意外に走る」という感触がありました。マフラーテストのためにサーキットを走らせると、駆動系がノーマルなのにストリートで85km/hは出ますから、初心者なら充分レースになる速度だと思います」 そんな具合に4スト50ccスクーターに目を付けたエジソン中里さん。まだ参加レースも決まっていないうちに居ても立ってもいられず、マシンの製作にとりかかった。そうして完成したマシンが、今回ご紹介するJOGというわけ。テストライドしたキッシー岸田によると、「レースの入門用としてはちょうどいいスピード」とのこと。◎としても今後のミニバイクレースの底辺を担う可能性を感じたため、冒頭に述べた通り、まずはエキジビション開催を決めた次第だ。また、このクラスではモンキーなどミッション車の参加も可能。直線が速いが、コーナーは10インチタイヤを履くスクーターの方に分があり、結局ラップタイムでは同等程度になるのではないかと予想される。 ◎としては、2016年も参加者の声を聞きながら、この「4スト50ccクラス」の開催を検討していきたいと思っている。誌面でも情報を発信していくので、チェックをヨロシクです!

◎杯でエキジビション開催
12月13日、モトチャンプ杯ミニバイクレース西日本シリーズの最終戦で、「4スト50ccクラス」がエキジビションとして開催された(レースの様相は次号でご紹介予定)。このクラスの提唱者が、NRマジックのエジソン中里さんである。NRマジックといえば、マフラーメーカーとしてだけでなく積極的なレース活動でも知られるところ。特にグロムに関しては、まだ発売されて間もない頃からいち早くレーサーに仕立て上げ、モトチャンプ杯の「グロムクラス」をはじめ様々なレースに参戦してきた。そんなNRマジックが、なぜ今「4スト50ccクラス」を提唱するに至ったのだろうか? それは、FNクラス(※)で使われている2ストスクーターが製造中止になってから久しいことと関係がある。エンジン関係などのメーカー純正部品が、ほとんど手に入りづらくなっているというのだ。 「50ccのスクーターレースは、階段で言うなら一番下の場所。これからレースの階段を上ろうとする子供たちのためにも、なくなってしまうといけないのです。だけど、部品がないければどうしようもない。だったら現在の主流で豊富に車両が出回っている4ストがいいのではないかと、思いついたのです。それも125ccではなく50ccだったら、車両価格も部品もリーズナブルで手に入れやすい。今、人気のあるFP4ST(125cc)4ストスクーターの準改造クラスよりも、もっと気軽に楽しめるはずですよ」と、エジソン中里さんがその狙いを語ってくれた。

※FNクラスとは? 排気量は50cc以下のノーマルスクーター。変更可能な箇所はCDIやリヤショックなどごくわずか。2スト/4ストの区別はないが、パワーに勝る2ストマシンの独壇場となっている。